

論文内容の要旨

報告番号		氏名	川島 渉
A New Quantitative Multi-parameter Method Improves the Accuracy of Age Estimation from Oral Findings			
(和 訳) 口腔内所見を用いた新たな年齢推定法			

論文内容の要旨

身元不明遺体の個人同定において、年齢推定は重要な指標の一つである。歯牙は損傷の激しい遺体においても長時間残存しているため、年齢推定に用いられることが多い。歯牙の肉眼的所見からの年齢推定法は多く報告されているが、判定方法が主観的なものであり、同一の遺体でも測定者により推定年齢が異なる。また、測定に用いる歯牙がない無歯顎の症例では、年齢推定ができなかった。今回われわれは、上顎および下顎の歯牙数、補綴物の数、歯牙の咬耗度、咬合接触域および下顎角の角度を使用した新たな年齢推定の方法を考案した。これらの測定値のうち、咬耗度以外の値は客観的な数値で表すことができ、咬耗度に関しても、過去の報告よりも簡便に測定でき、測定者による誤差が出ないようにした。今回の結果、われわれの方法は、過去に報告された歯牙の肉眼的所見からの年齢推定法とほぼ同程度の誤差で推定を行うことができ、さらに 60 歳以上の高齢者では、過去の方法よりも正確な推定を行うことができた。また、下顎角の角度と年齢との間には相関関係が認められたため、無歯顎症例でも年齢推定を行うことができるよう、下顎角の角度のみからの推定式も考案した。われわれの方法は、口腔内所見を簡便に、さらに測定者による誤差が少なく、より客観的に測定でき、過去の方法とほぼ同程度の推定精度で年齢推定を可能にした。また無歯顎の症例でも推定を可能にしたことにより、大規模災害時の個人同定において有用な方法である。